

平成22年度 調査研究事業報告書

「地域講師の活動状況と学習志向に関する調査」

平成23年3月

Mie lifelong learning center 
三重県生涯学習センター

はじめに

生涯学習は各人それぞれの自発的意志に基づいて行うことを基本とする学習であり、学習内容も趣味・教養的なものから職業能力の向上をめざすものまで多種多様ですが、いずれの場合も学習者の自己確立をめざす「個人の(学習)要望」が原点にあります。一方、個人の集合体である地域社会が住民にとってより良く存続・発展していくためには、地域住民協働で解決すべき課題としての「社会の要請」があります。

住民一人ひとりが今日の時代の進展や社会変化に、適切に対応しながら活力をもって生きていくためには、すべての人々にとって生涯学習は不可欠であり、生涯学習振興のためには、上記「個人の要望」と「社会の要請」のバランスのとれた視点をもって、人間的・社会的・経済的な価値等の調和を図っていくことが重要であります。

平成20年2月に公表された中教審答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策 ～知の循環型社会の構築を目指して～」においても、これからの生涯学習社会のモデル像として、自己実現を図るべき個人々の学習成果が地域社会全体の教育力を向上させ、その結果としてステップアップした地域の教育力がさらなる新しい個人の学習需要を産出するという、「知の循環型社会」の構築について提言しています。

本県においても、自らの学習成果を地域教育力の一環として社会進展に寄与しようとの理念から、毎年多くの方々が三重県生涯学習センターのホームページ上に、「講師・指導者」としてご登録いただいています。そのような方々の活動実態については、平成18年度に三重県生涯学習センターが調査研究を実施しその報告書を公表したところではありますが、毎年登録いただいている方々のその後の活動実態については、その後十分な把握ができていない実情であります。このため、平成21年度に改めて「地域講師の活動状況と学習思考に関する調査」と題しての実態調査を実施し、本年(22年)度その結果を分析しここに報告させていただくこととなりました。

この調査研究報告書が、本県における生涯学習・社会教育機関および各種団体や関係者の皆様方が、今後のあり方についてお考えいただく上での一助となればと期待しているところであります。

本調査研究にご協力いただきました、関係機関の皆様方およびアンケート調査にお応えいただきました講師・指導者登録者の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成23年3月

三重県生涯学習センター所長

星野 茂

I	調査の概要	
1	調査の目的	1
2	実施概要	1
II	調査結果	2
III	まとめ	14
IV	資料	
	・年度別調査結果	16
	・回答者フリーコメント	23

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、三重県生涯学習センター生涯学習情報提供システムに登録している講師・指導者に対する活動実態や、他の機関・施設等が有する講師・指導者データベース等への登録状況及び生涯学習を目的とした団体・グループ等への所属状況の調査を通じて、地域の講師・指導者が求めているものや、より活発な地域活動に必要な取組等についての志向性を抽出するものである。

そして、本調査結果を広く公表し、地域の講師・指導者の活動を支援するとともに、本県の生涯学習・社会教育関係機関のこれからのあり方を考える一助となることを目的とする。

2 実施概要

- | | |
|---------|--|
| ① 対象者 | 三重県生涯学習センター 生涯学習情報提供システム
「講師・指導者情報」登録者 682名 |
| ② 実施期間 | 自 H21.10.7 ～ 至 H21.11.30 |
| ③ 調査方法 | 郵送による配布・回収 |
| ④ 分析方法 | 定量分析 |
| ⑤ 調査対象数 | 671件
(682件中、11件が転居先不明等により返送) |
| ⑥ 回収結果 | 336件 (回収率50.1%) |

調査機関 財団法人 三重県文化振興事業団 三重県生涯学習センター (所長 星野 茂)

本文中の記載について

「地域講師」…………… 地域での活動を主体とする生涯学習活動の実践・指導者

「地域活動」…………… 地域講師による生涯学習活動の実践・指導

Ⅱ 調査結果

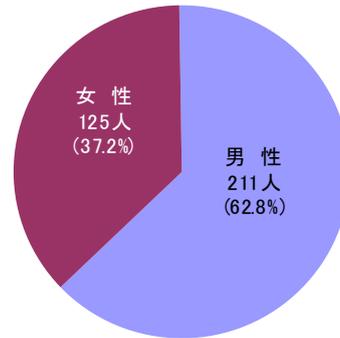
(1) 回答者の属性

① 性別

回答者の男女比はおよそ 2 : 1 である。【図表 1、2】

【図表1】回答者の男女比

	回答数	回答率
男性	211人	62.8%
女性	125人	37.2%
無回答	0人	0.0%

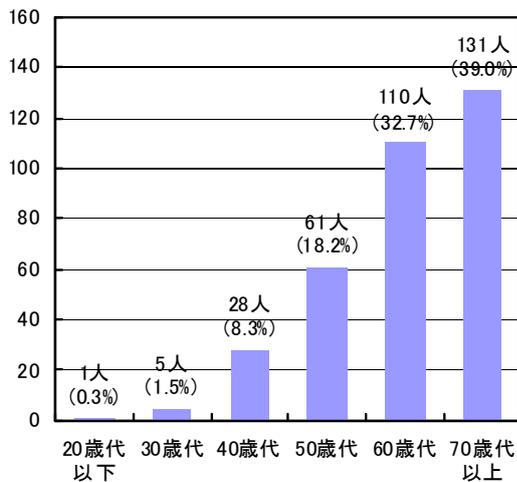


【図表2】回答者の男女比

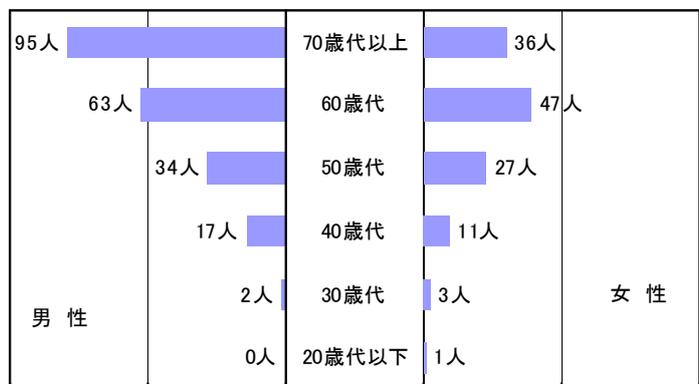
② 年代

回答者の年齢分布は60歳代、70歳代以上が半数以上を占めている。今後「団塊の世代」のさらなる地域活動への参画を考えると、今後も高齢世代の増加傾向が予想される。

また、年齢別の男女比【図表4】を見ると、ほぼ全年代において、男性の回答者数が女性の回答者数を上回っており、特に70歳代以上になると、その割合はおよそ7 : 3（男性95人 / 72.5%、女性36人 / 27.5%）になる。



【図表3】回答者の年齢分布



【図表4】回答者の年齢別男女比

③居住地

登録先である三重県生涯学習センターが津市にあることから、津市を居住地とする回答者が圧倒的に多く、全体の3割以上（121人／36.0%）となっている。

続いて、松阪市（29人／8.6%）、桑名市（27人／8.0%）、四日市市（24人／7.1%）の順となっており、三重県内の人口分布に概ね準ずる結果となっている。

市町名	回答数	市町名	回答数	市町名	回答数	市町名	回答数
桑名市	27	亀山市	20	玉城町	0	御浜町	5
いなべ市	4	津市	121	度会町	1	紀宝町	1
木曽岬町	0	松阪市	29	南伊勢町	2	県外	7
東員町	3	多気町	3	大紀町	2	無回答	0
四日市市	24	明和町	2	伊賀市	11		
菰野町	4	大台町	4	名張市	9		
朝日町	1	伊勢市	21	尾鷲市	2		
川越町	1	鳥羽市	1	紀北町	4		
鈴鹿市	21	志摩市	6	熊野市	0	合計	336

※掲載順は、県刊行物等を参照

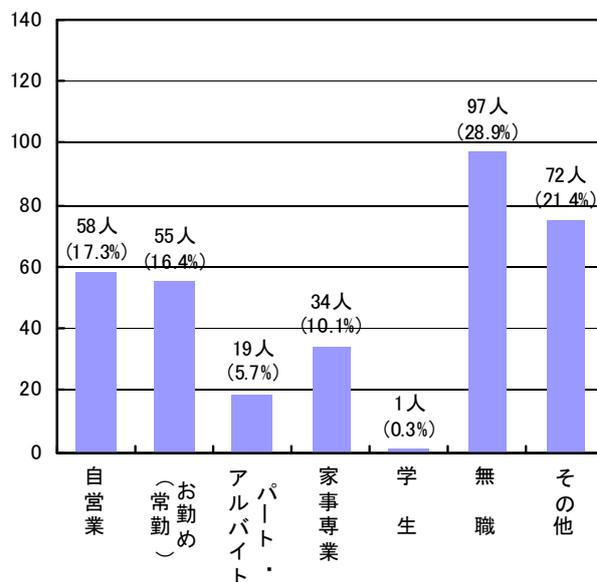
【図表5】回答者の所属市町

④就業・就学の状況

年齢分布（P. 2【図表3】参照）と呼応するように、「無職」「その他」の割合が約半数（172人／50.3%）を占めている。

「その他」の中には、営利・非営利会社役員、大学・専門学校講師（非常勤）、芸術家、僧侶、自由業などが含まれている。

18年度調査対比としては、「お勤め（常勤）」の割合が約10パーセント（25.9%→16.4%）減少している（P. 16【図表25】参照）。このことはリーマン・ショックをはじめとした社会・経済構造の変化から仕事と地域講師活動の両立が困難になってきていることやこれに伴う解雇、または高齢化による定年退職者の増加等が影響していると推測できる。

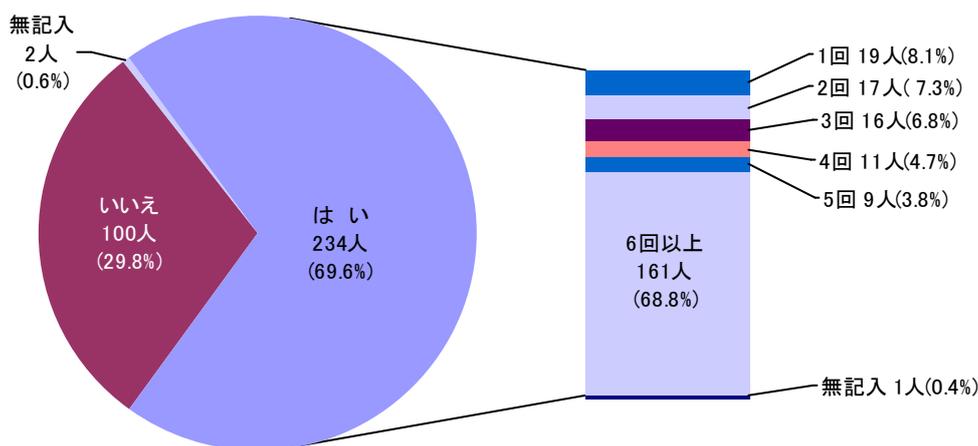


【図表6】回答者の有給就業・在学

(2) 地域活動の実態

① 過去1年間の活動実態（活動の有無・活動回数）

回答者のうち、7割近く（234人／69.6%）が、この1年間に何らかの地域活動をしている。
また、活動回数については「6回以上」が7割近く（161人／68.8%）を占めており、地域活動数の幅に、大きな個人差がある。

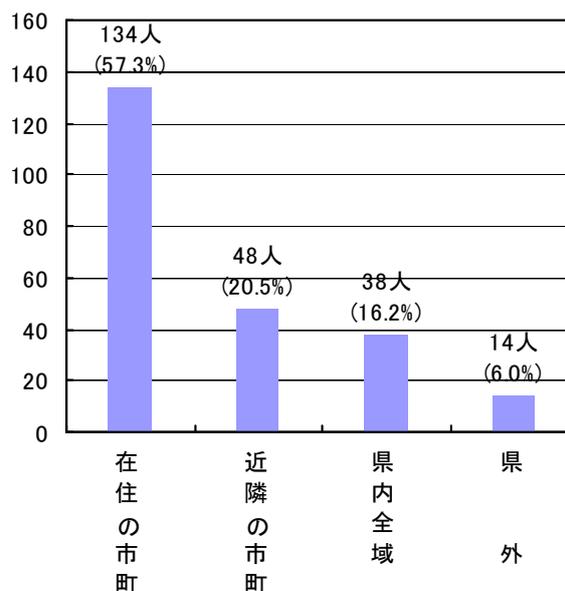


【図表7】地域活動(1年間)および地域活動回数(1年間)

② 活動範囲

「在住の市町」での活動が半数（134人／57.3%）を上回り、「在住の市町」での活動に「近隣の市町」での活動を併せると8割近く（182人／77.8%）の方が居住地の近隣を活動範囲としている。

この範囲が地域活動としての主な活動場所であることから、活動に関する情報等は、これらの地域に点在する活動場所として使用されている施設、機関で集約、活用することが効果的と考えられる。

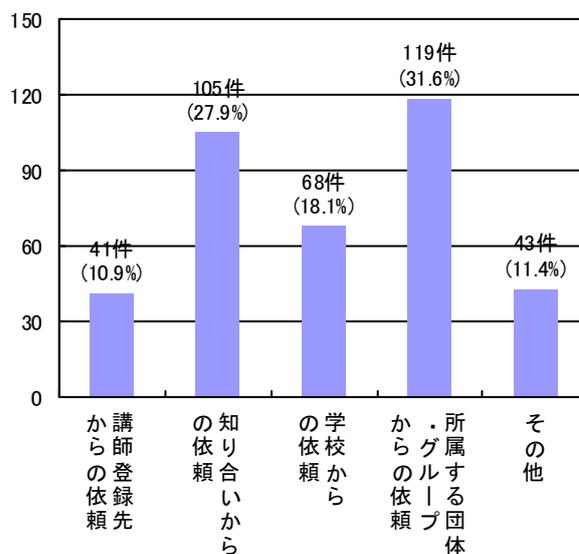


【図表8】地域活動範囲(1年間)

③ 地域講師としての活動を依頼してくるところ

最も多かった回答は、「所属する団体・グループからの依頼」（119件／31.6％）で、次に「知り合いからの依頼」（105件／27.9％）となっている。「講師登録先からの依頼」は1割程度（41件／10.9％）である。

「その他」の中には「公民館をはじめとした市町行政機関から」「インターネット情報から」「民間企業から」などとなっており、「自分で企画から実施までおこなっている」という回答もあった。



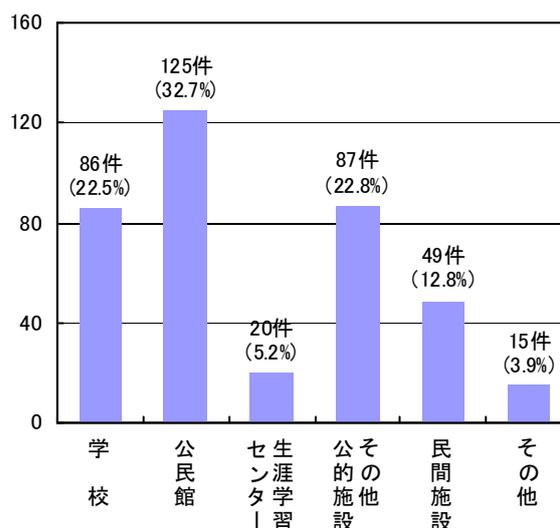
【図表9】地域活動依頼先(複数回答)

④ 活動施設

「公民館」（125件／32.7％）が最も多く、「その他公的施設」（87件／22.8％）、「学校」（86件／22.5％）の順になっている。

「生涯学習センター」「民間施設」を利用した活動は少ない。地域にある施設が多く利用されている。

平成18年度調査と比較した場合、「学校」での利用が15.7％から22.5％へ増加している（P.19 【図表31】参照）。「学校」の利用が増えた背景には、「学校支援地域本部事業」等の広がりが影響しているものと推測できる。



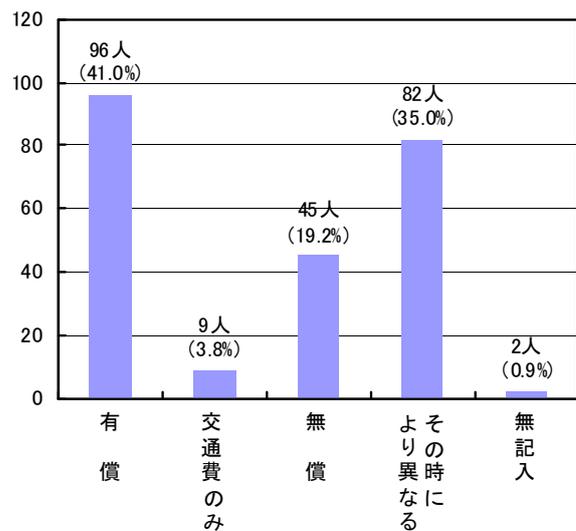
【図表10】地域活動に使用した施設(複数回答)

⑤ 報酬の有無

「有償」「交通費のみ」の回答が合計で5割近く（105人／44.8%）となっている。

また、「無償」は2割程度であった（45人／19.2%）。

内訳としては、1回の報酬額は5,000円～10,000円が最も多く、回答者の平均的な報酬額はおよそ10,000円前後であり、中には100,000円を越える報酬額もあった。

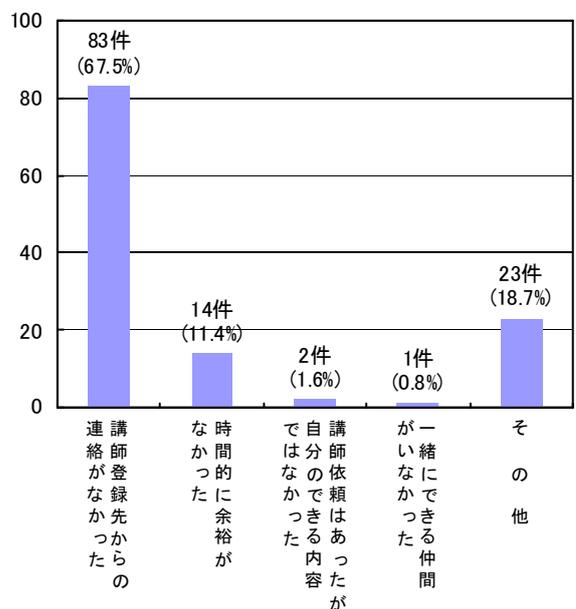


【図表11】活動報酬

⑥ 活動できなかった理由

調査票で、「1年間、1度も地域活動をしなかった（できなかった）」と回答した回答者の集計である。平成18年度調査同様、今回も「講師登録先からの連絡がなかった」が圧倒的に多かった（83件／67.5%）。前述の結果（P. 5 ③ 地域講師としての活動を依頼してくるところ 参照）からも分かるように、「講師登録先からの依頼」は1割程度である。

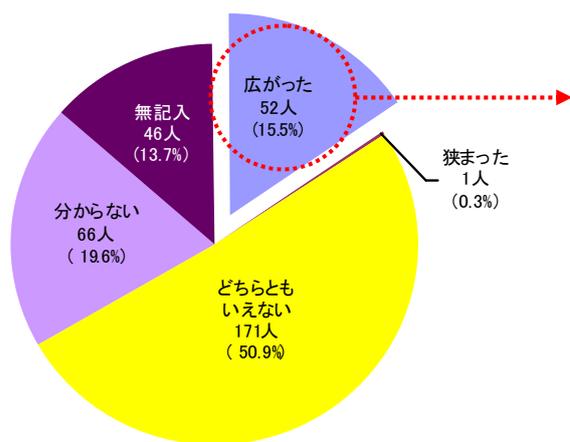
今回の調査でも、情報を提供する側と、情報を登録している側には「情報の活用」という点において、求める効果とその見解に違いがあるようである。情報の提供者側は、講師情報の登録＝講師活動の斡旋であると考えている方が多いと推測できる。



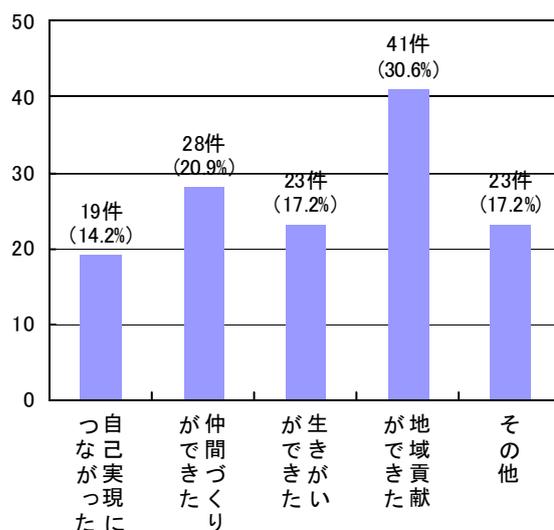
【図表12】回答者が考える活動できなかった理由（複数回答）

(3) 「講師登録」がもたらす地域活動への変化

講師登録をしたことによる地域活動の幅の変化については、「広がった」との回答が、合計で約2割（52人／15.5%）となっている【図表13】。また、図14から「広がった」と回答した回答者の実感としては「地域貢献ができた」という意見が多い（41件／30.6%）。回答者の実感として、平成18年度調査同様（P. 20 【図表35】参照）、「仲間づくり」「生きがい」「自己実現」よりも、自らの技術や知識を地域に活かしたいという点が重要視されているようである。



【図表13】講師登録後の地域活動の幅の変化

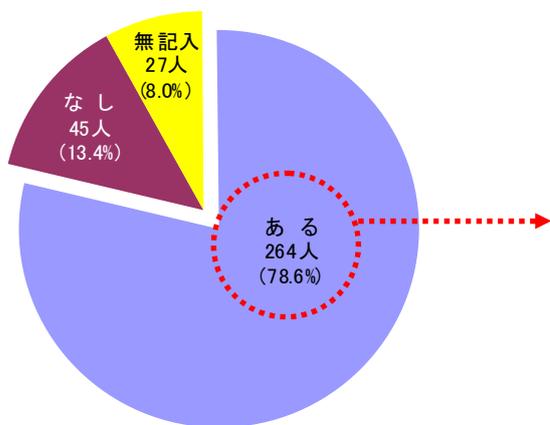


【図表14】「広がった」と感じる点(複数回答)

(4) 講師自らによる「スキルアップ」への取り組み

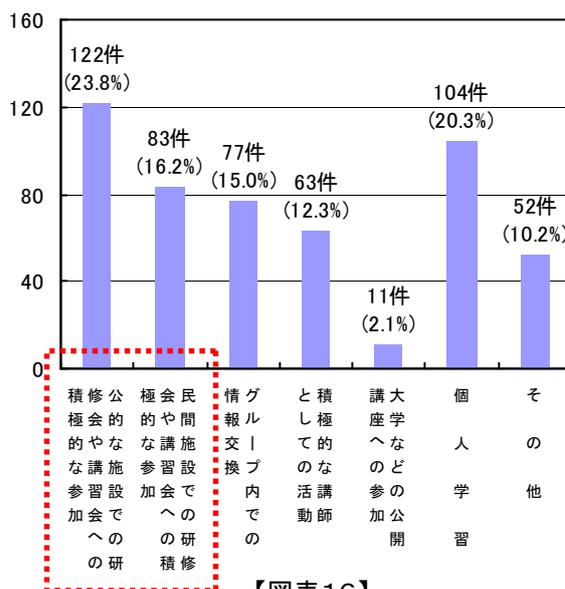
① 取り組みの実態

8割(264人/79%)に迫る回答者が、自らの技術や知識の向上のための取り組みを行っている
と回答している【図表15】。その内訳【図表16】を見ると、「公的な施設での研修会や講習会への積
極的な参加」(122件/23.8%)の次に、「個人学習」(104件/20.3%)の割合が多い。
個人学習もスキルアップ方法の一つではあるが、研修会や講習会などへの参加という点で考えると、団
体・グループへ所属している方が情報を入手しやすく、スキルアップの取り組みをより容易にし、地域
活動の活性化につながるようである。この傾向は、平成18年度調査と引き続き、同じ傾向となってい
る。(P. 10 ④団体・グループへの所属 参照)



【図表15】

スキルアップへの取り組み

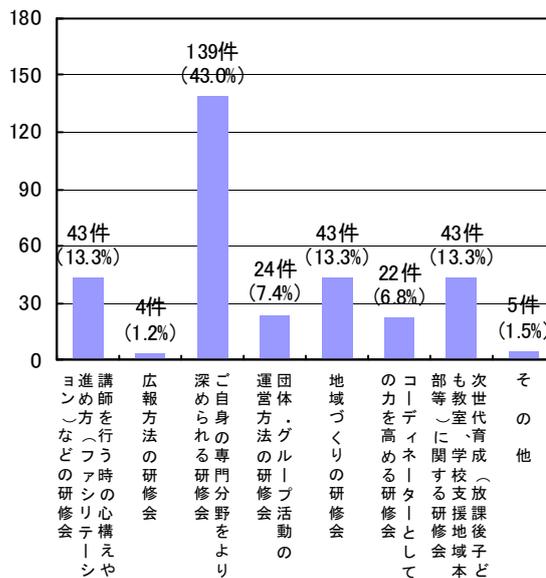


【図表16】

スキルアップへの取り組み(内訳・複数回答)

②参加したい研修テーマ

前項目の「①取り組みの実態」で「公的な施設
での研修会や講習会への積極的な参加」「民間施設
での研修会や講習会への積極的な参加」と答えた
方(205人/回答数323件)にどのような研修
会や講習会に参加したいかと尋ねたところ、約4
割(139件/43.0%)の方が「ご自身の専
門分野をより深められる研修会」と回答している。



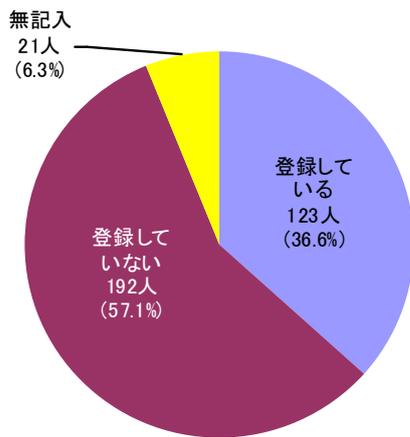
【図表17】参加したい研修テーマ(内訳・複数回答)

③ 複数データベースへの登録

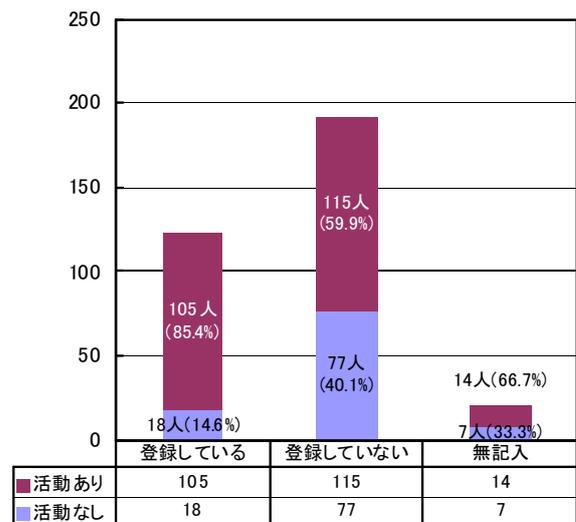
三重県生涯学習センター以外へのデータベース登録状況は3割程度（123人／36.6%）にとどまっている。

また、この1年間の地域活動歴【図表19】を見ると、複数のデータベースへ登録している回答者の9割弱（105人／85.4%）に地域活動があったのに対し、複数のデータベースへ登録していない回答者では6割（136人／59.9%）となっている。

地域活動の活性化・支援という点で、複数のデータベースへの登録は有効であると考えられる。



【図表18】複数データベースへの登録状況



【図表19】複数データベースへの登録状況別地域活動歴(過去1年)

三重県生涯学習センター以外の、主な登録先（抜粋）

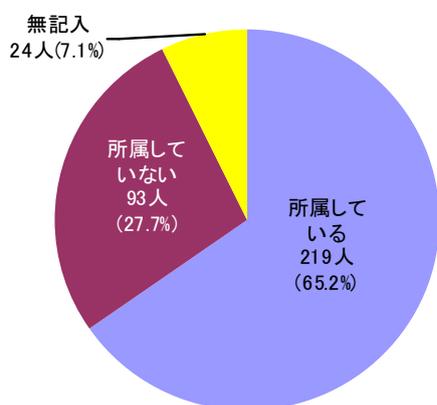
伊勢市生涯学習センター	いなべこども活動支援センター	亀山市生涯学習人材バンク
桑名市人財バンク	毎日文化センター	三重県退職教職員互助会
津市生涯学習情報バンク	津中日文化センター	三重県スポーツリーダーバンク
各地域の文化協会	各地域の体育協会	各地域の総合型地域スポーツクラブ
各地域の市民活動センター	各地域の公民館	各地域の社会福祉協議会

順不同

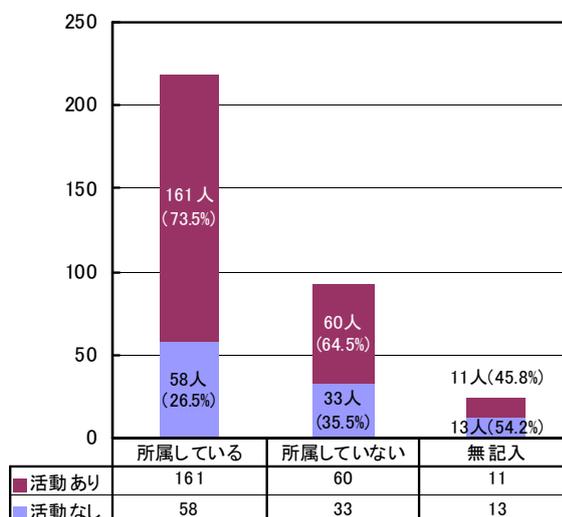
④ 団体・グループへの所属

6割以上の回答者（219人／65.2%）が、生涯学習に関する何らかの団体・グループに所属している【図20】。

図21は回答者の過去1年の地域の活動歴と団体・グループに所属しているか否かをクロス集計したものであり、団体・グループの所属・非所属による地域活動への変化を測定する表である。今回の調査では、団体・グループに所属している回答者のうち7割以上（161人／73.5%）に活動があったのに対し、団体・グループに所属していない回答者では6割程度（64人／64.5%）となっている。平成18年度調査と比較すると、過去一年の地域活動について、グループに所属している回答者が7割以上（174人／76%）に対し、団体・グループに所属していない回答者では5割程度（64／52%）であったことから、地域活動の活性化・支援という点で、団体・グループへの所属の有効性は若干低下傾向にはあるもののまだまだ有効であると考えられる。



【図表20】団体・グループへの所属状況

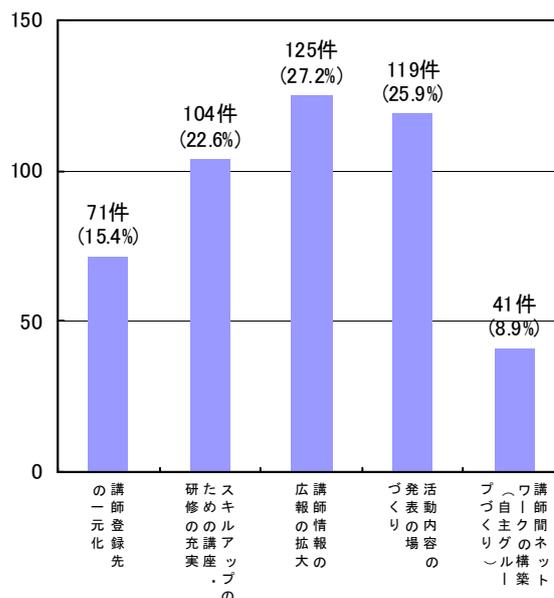


【図表21】団体・グループへの所属状況別地域活動歴(過去1年)

(5) 講師として地域活動の活性化に必要なこと

最も多かった回答は、「講師情報の広報の拡大」(125件/27.2%)で、次に「活動内容の発表の場づくり」(119件/25.9%)、「スキルアップのための講座・研修の充実」(104件/22.6%)と続く。

「講師間のネットワークの構築(自主グループづくり)」は1割(41件/8.9%)を切る結果となった。



【図表22】

講師として地域活動の活性化に必要なこと(複数回答)

上記回答を受けて、回答者が考える理想的な地域活動(抜粋)

- ・ 少子高齢化社会が進んできました。今後ますます子どもが少なく高齢者が増えてきます。ひとりひとりの子どもが健康で健全な大人に育っていくように、高齢者が健康で楽しくいつまでも元気に過ごせるように、その人々に合ったスポーツ指導をやっていきます。
- ・ 研修会の開催・補助金を支給した団体づくりはするし若干の活動はするが内容が乏しいが多い。私は今、老人介護ボランティア活動を指導しているが毎月1回会合を持ち活動を進めている。参加者が25～30名くらいである。会場は地域の公会所を無償で使用している。公的援助は受けない。ボランティア活動への参加は先ず参加することが楽しいものにすることが大切で4年間継続している。名ばかりの活動に比べ老人が楽しんで参加している。
- ・ これからは老人もだれでも出来る色々なスポーツを地域にあったルールまたは活動の場を作っていきたいと思います。
- ・ 過疎化の進む田舎での地域活動はいろいろな制約がありすぎて難しい。世代間のギャップもあるが発表の場があれば情報交換も出来るし年齢を超えた交流も出来る。今自分の住むところを拠点としてそういう場を創り出す試みをしています。
- ・ 学校へ邦楽普及の為、和楽器(箏三味線尺八)を寄贈しております。
- ・ 大きく構えず地域の婦人会や老人会又子ども会に溶け込んだグループの指導を金銭的負担を少なくして楽しめるサークル教室を多く持って頂くのを理想としている。
- ・ できることはしようという態度を守りたいと思います。することは社会的にどんな意味があるのかを考えたいと思います。

- ・ 伝統文化である書道の発表のため、日夜書の研究と勉強に励んでおります。特にその為にはどのような方法で推進するかと申しますと、まず書道の個展を開催し、一般書道の良さを認められるよう努力中があります。又、現在はテレビで書道の講座を放送して書道の一般的常識（歴史、上達方法、作品発表、文房四宝その他）を重点的に実施しております。
- ・ 同好の士を集め研究を深める。
- ・ 小学校、中学校等の指導でお金を取らないで行っていきたい。（保険料だけは出してもら）。子どもの指導にお金を取るのはおかしい。
- ・ 私は卓球のコーチを25年以上続けています。桑名地域では沢山の人（特に中高年）が生涯スポーツとして卓球を楽しんでいます。これからも地域の健康に貢献していきたいと思っています。
- ・ 文化生涯活動の指導には目的がある。その目的のために最も効率のよい指導活動を目指している。私の場合は鈴鹿市で俳句を楽しむ人が1人でも増えることを願って、月例会を行ったりPRのための講師として会に参加したり多様に指導している。
- ・ 子ども達に手先指先にて物づくりの実感が体験できるような運動。子ども達に大志を抱けと教育したい。夢ははかなく現実化するものではないのに今は子ども達に夢をもてと教育している。
- ・ テーマを特定して関係者に参加を呼びかける。
- ・ 前にいたコンサル会社で緊急雇用対策のテーマの一つとして地域活動を取り上げいろいろ議論しています。感じていることとして①行政の介入はほどほどに、②難しい研修会、講習会はダメ、③自然発生的な地域活動が出来ないか、④時間はあるが場所がない、⑤リーダーは要らない〔皆がリーダー〕にもって行けないか、⑥昔のようなお寺の活用を考えています。日本のお寺は何もしませんね。
- ・ 発表する場を設けそれに向かって練習する。発表する場も大きなものだと参加出来る人が限られてくる為、小規模のものを多く作りそれに慣れた人が出るような大きな場も作る。
- ・ 自分で考え行動する人を育成。自由と公正、正義、広い心を養う。
- ・ のどがかわいたら水を飲む。心が乾いたら花を飾りましょう。をモットーに花を飾っています。老人会にお茶出しています。（奉仕）
- ・ 現在の生活の中で楽しく活動が出来ればよいと思っています。
- ・ 継続は実践（本気で楽しいか）。
- ・ 老人施設の運営に携っているので施設を常に開放し地域住民が安心して老いるよう少しでも協力したい。
- ・ 総合型地域スポーツクラブでやりたいです。
- ・ 地域間の連携が必要だと考えます。
- ・ 現在婦人など組織化がなくなり地域のつながりがなくなり、新しく作っていくための努力が必要と思いますが、今私には時間がありません。考えるとあせります。
- ・ 地域活動の鍵を握る公民館活動との連携、協働。
- ・ 私は市の文化協会に所属しています。なるべく出席する様にしています。私は市の文化協会を中心に地域活動をしたい。
- ・ 地域住民で出来ることがもっと共有できれば（内容的に）よいと思う。
- ・ 勉強している人たちの技術が優れていても、生かす場所が少なく講師として悩みの一つです。
- ・ コミュニティー作りと、少しずつ相談活動を広げてゆきたい。
- ・ 講師の資格取得目的に指導範囲が狭いので、普及活動を広げ底辺を広げたいと思っています。
- ・ 生涯学習には年齢は関係ありません。生涯学習をすることにより、多くの人々と言葉を交わす機会が増え高齢者を孤独より解放。自分の住む地域の歴史を子ども達と勉強することにより温もりある地域社会

がよみがえると思っています。

- 今までは役職が多く地域での取り組みが少なかったので現在も今後なるべく多く小さな行事にも参加するように心がけている。そして何か地域に貢献したいと考えている。
- 地域の人々が色々な分野に生きがいを持てる場、又活動できる場が増えることを願っています。講師として地域に貢献できるようできるだけ活動の場を開拓していきたいです。その為にも日頃から自身の専門分野の勉強が必要と痛感しています。
- 高齢化社会、自己中心的な考えの人が多。複雑化する社会となり地域活動も年々困難になっています。そんな中で私はスポーツ少年団指導、体育指導委員、民生委員に、仕事を持ち家庭の主婦として多忙な日々を送っています。かつ、時間を見つけ地域活動にも積極的に参加しています。忙しくても自身のスキルアップを求めて新しいことにチャレンジする気持ちが一番かなと考えています。
- 日本の伝統文化の一つきものの着付けをしています。年齢層もいろいろですが出来れば小学校、中学校、高校等では早くから日本の着物になじんでほしい為部活、サークルなど趣味的分野で活動できればと考えています。もちろん自分自身が出向き着物の話をしながら実技が出来ればと思っています。
- あくまで私見ですが、かるたに限って言えば「愛好者=かるた協会会員」といった構図ではなく野球に例えるなら底辺にファンの層があり草野球の層があって頂点にはプロ野球があるように、かるたでは「お座敷かるた」を楽しむ層があって頂点には名人やクイーンといった高段者がいるといった「ピラミッド構造」が理想。そのためには ①いつでも誰でも気軽に楽しめる環境・施設の整備 ②ルールや基本的なことをアドバイスでき一緒に楽しめる人〔指導者ではない、複数〕の育成 ③各地域の核となる指導者の育成とそのネットワークの構築 ④愛好者が気軽に参加できる色々なレベルの地域の大会の開催⑤さらに高いレベルを目指す人のためのかるた協会の存在。
- ここ数年の活動体験からいいますと行事主催者側も年々活動予算が減少しており講師を依頼される私達はその内部事情等をしっかり理解することと、頼まれたからにはしっかりおしゃべりして、特に福祉落語家である私は、集まっていたいた人たちに楽しく学習してもらえるように常に考えています。
- スキー人気も過ぎ去りスキー人口が激減しクローズするスキー場も増えています。淋しい現状です。スキーの楽しさを体験してもらえるようスキー場に戻ってきてもらえるよう努力しています。
- 地元の小学校や子ども会活動との連携、交流。

Ⅲ まとめ

三重県生涯学習センターでは、平成18年度に引き続き、平成21年度にも『地域講師の活動状況と学習志向に関する調査』をおこなった。今回の調査でも、地域講師の活動に関するさまざまな実態から、活動の個人格差が大きいこと、理想的な活動環境や活動を通じて求めているもの、活動に関する“要望”と“現実”とのギャップなどがあるということが読みとれた。今回の調査も前回同様、地域活動を実践している、いわば生涯学習実践者への調査であり、この結果がそのまま県民（潜在的学習者を含む）全体の実態とは言えない。この調査報告が、本県の生涯学習の振興を“軸”として担う地域講師への支援にとどまらず、これから活動を始めようとしている県民（潜在的学習者）へ学習機会や学習情報を届けるための、支援の一助となることを願う。

地域の講師を地域で活かすためには

回答者である地域講師は、自身の活動範囲を「在住の市町」「近隣の市町」としていることが多く、今回の調査では、前回の調査より「近隣市町」から「在住の市町」へ活動範囲をシフトしている傾向が強くなっており、より身近な地域が活動範囲となっている。又、講師登録により「活動の幅が広がった」と回答している地域講師の多くは、地域活動を通じて「地域貢献ができる」と感じているようである。今回の調査結果を地域講師の「活動ニーズ」としてとらえるならば、さまざまな研修・講座・イベント等を、各地域に在住、若しくは近隣の地域に在住の講師・指導者情報と照会し、無料もしくは低料金で利用できる公民館、カルチャーセンター、コミュニティセンター、学校の空き教室などを会場として使用することで、一つの理想的な活動パターンの構築が考えられる。しかし、膨大な講師・指導者情報と多様な学習ニーズのマッチングの実現は難しく、それには官民間問わず、コーディネーターが出来る人材が必要と考えられる。今後は、地域講師と地域の学習ニーズを繋げるコーディネーターの育成や発掘が重要であり、生涯学習社会の実現に向けた大きな課題の一つである。

3. 社会教育を推進するコーディネーター養成のための研修プログラムの企画・立案の視点

1-2 コーディネートの5原則

- (1) 活動の目的、意義、目標等についての自覚を促し、関わる人のモチベーションを高めるようにつとめる。
- (2) 関わる人の間にメリット、デメリットが偏在しないようにする。
- (3) 関わるすべての人に現状以上の状態を保証するようにする。
- (4) それ以上改善の余地のない状態を選ぶようにする。
- (5) 情報の非対称性を避けつつ、フィルター役割を果たす。

「平成20年度社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上に関する調査報告書」
(文部科学省・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)より

さらなる“情報の発信基地”として

ここ近年の急激なIT技術の普及により、インターネットを利用する人は老若男女を問わず、急激に増加しているが、地域講師の多くは、現状のインターネットによる講師・指導者情報の提供方法には未だ十分でない印象を持っており、「講師・指導者情報の広報の拡大」が、より活発な地域活動を進める上で、最も重要と捉えている。三重県生涯学習センターとしても、学習したい人が、いつでもどこでもその分野に関する情報を検索・閲覧することができる「生涯学習情報提供システム」の一層の充実と、様々な生涯学習情報が活用される仕組みづくりを、各地域の関係機関と密接に連携しながら構築していくことが今後の継続的課題と考えられる。

1. 今後の生涯学習の振興方策について

4-1-2 多様な学習機会の提供、再チャレンジが可能な環境の整備 (情報通信技術の活用)

今後、情報通信技術の発展により、学習機会の提供・支援方策についても、様々な形態が考えられることから、例えば、携帯電話、インターネット配信、地上デジタルテレビ放送等の情報流通・配信手段に対応した社会のニーズが高い優れた教育・学習用コンテンツの視聴・利活用を促進するなど、情報通信技術を活用した具体的方策の充実を図ることが重要である。

「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～(答申)」(文部科学省・中央教育審議会)

“待つ姿勢”から“攻める姿勢”へ ～地域活動の活性化～

三重県生涯学習情報提供システムをはじめ、他の市町も同様に、多くの「生涯学習人材バンク」等は、ホームページ上で地域講師情報を掲載したり、県民や団体からの問い合わせがあってから初めて講師を紹介する形態をとっている。多くの地域講師の中には、「講師情報の登録＝講師活動の斡旋」という図式が無意識的に成立しており、自らの活動の幅を広げる手段を特別には講じず、「受け身」の状態に依頼を待っている現状が伺える。しかし、「登録先からの依頼」の件数は全体の1割程度であるのに対して、「所属する団体・グループからの依頼」「知り合いからの依頼」「学校からの依頼」が7割強を占めている現状から見ると、より活発な地域活動を希望する地域講師は、中枢機関だけではなく、同時に近隣施設への講師登録も行うことが望ましいと考えられる。

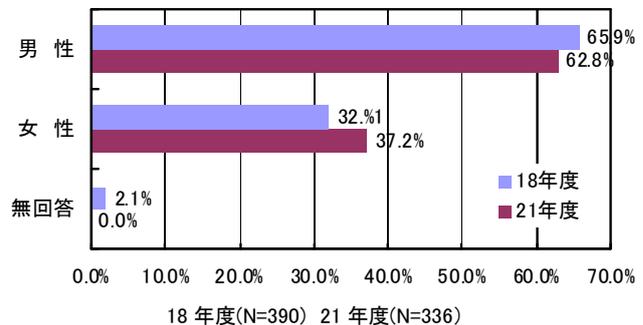
また、今後は、「生涯学習人材バンク」に登録した地域講師自らが、積極的に活動内容をPRしたり、自主的に事業や講座を展開できるようになるための行政的支援も必要であると考えられる。今日では、地域講師の主体性を持った活動が求められているため、指導者育成、後継者育成のための研修、支援体制の充実は、今後も三重県生涯学習センターの担うべき使命であると考えている。

IV 資料

・年度別調査結果

【Q1】性別を教えてください。

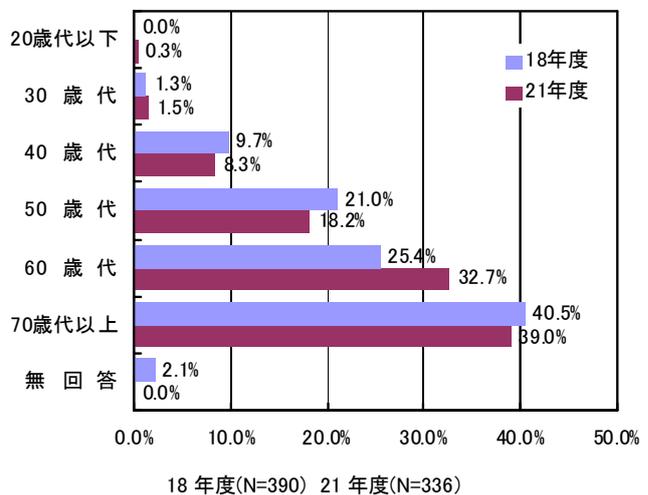
	18年度	21年度
男性	(人) 257 (%) 65.9	211 62.8
女性	(人) 125 (%) 32.1	125 37.2
無回答	(人) 8 (%) 2.1	0 0.0
回答者数	(人) 390	336



【図表23】年度別回答者の男女比

【Q2】年齢をお答え下さい。

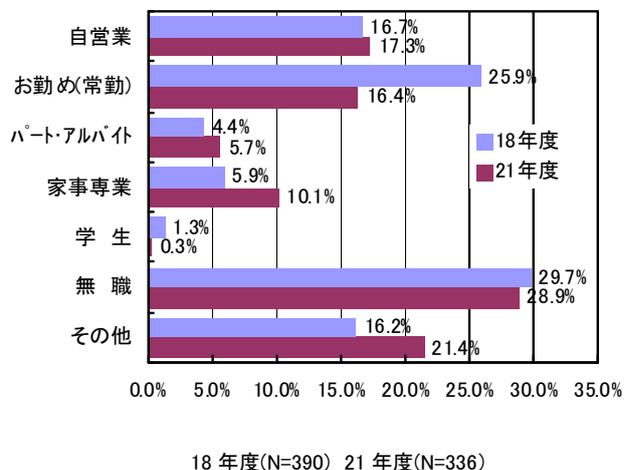
	18年度	21年度
20歳代以下	(人) 0 (%) 0.0	1 0.3
30歳代	(人) 5 (%) 1.3	5 1.5
40歳代	(人) 38 (%) 9.7	28 8.3
50歳代	(人) 82 (%) 21.0	61 18.2
60歳代	(人) 99 (%) 25.4	110 32.7
70歳代以上	(人) 158 (%) 40.5	131 39.0
無回答	(人) 8 (%) 2.1	0 0.0
回答者数	(人) 390	336



【図表24】年度別回答者の年齢分布

【Q3】職業等についてお答え下さい。

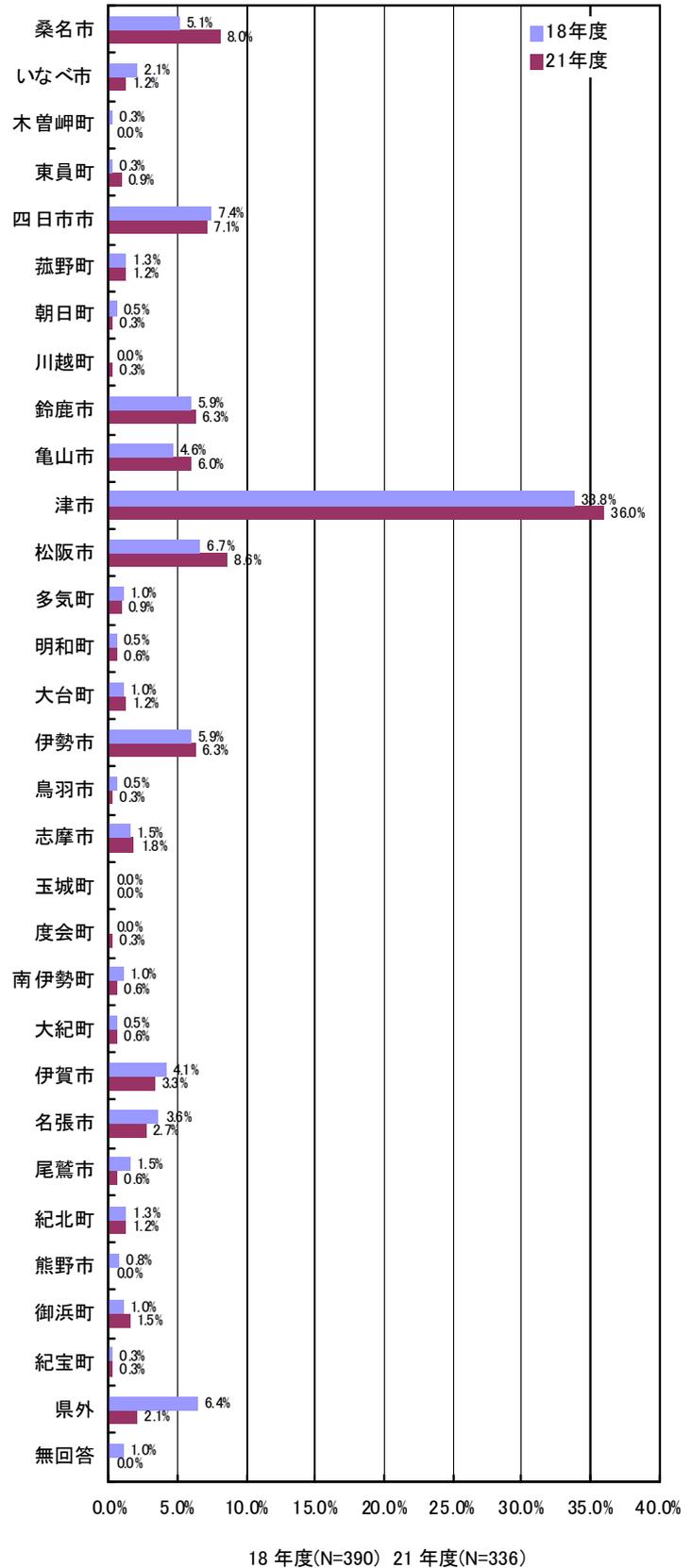
	18年度	21年度
自営業	(人) 65 (%) 16.7	58 17.3
お勤め(常勤)	(人) 101 (%) 25.9	55 16.4
パート・アルバイト	(人) 17 (%) 4.4	19 5.7
家事専業	(人) 23 (%) 5.9	34 10.1
学生	(人) 5 (%) 1.3	1 0.3
無職	(人) 116 (%) 29.7	97 28.9
その他	(人) 63 (%) 16.2	72 21.4
回答者数	(人) 390	336



【図表25】年度別回答者の有給就業・在学(比率ベース)

【Q4】あなたのお住まいについてお答え下さい。

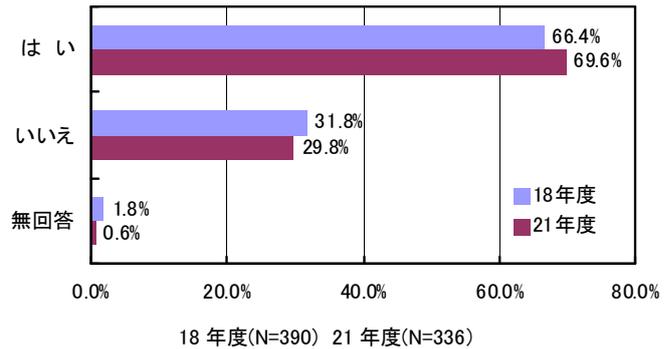
	18年度	21年度
桑名市	(人) 20 (%) 5.1	27 8.0
いなべ市	(人) 8 (%) 2.1	4 1.2
木曾岬町	(人) 1 (%) 0.3	0 0.0
東員町	(人) 1 (%) 0.3	3 0.9
四日市市	(人) 29 (%) 7.4	24 7.1
菰野町	(人) 5 (%) 1.3	4 1.2
朝日町	(人) 2 (%) 0.5	1 0.3
川越町	(人) 0 (%) 0.0	1 0.3
鈴鹿市	(人) 23 (%) 5.9	21 6.3
亀山市	(人) 18 (%) 4.6	20 6.0
津市	(人) 132 (%) 33.8	121 36.0
松阪市	(人) 26 (%) 6.7	29 8.6
多気町	(人) 4 (%) 1.0	3 0.9
明和町	(人) 2 (%) 0.5	2 0.6
大台町	(人) 4 (%) 1.0	4 1.2
伊勢市	(人) 23 (%) 5.9	21 6.3
鳥羽市	(人) 2 (%) 0.5	1 0.3
志摩市	(人) 6 (%) 1.5	6 1.8
玉城町	(人) 0 (%) 0.0	0 0.0
度会町	(人) 0 (%) 0.0	1 0.3
南伊勢町	(人) 4 (%) 1.0	2 0.6
大紀町	(人) 2 (%) 0.5	2 0.6
伊賀市	(人) 16 (%) 4.1	11 3.3
名張市	(人) 14 (%) 3.6	9 2.7
尾鷲市	(人) 6 (%) 1.5	2 0.6
紀北町	(人) 5 (%) 1.3	4 1.2
熊野市	(人) 3 (%) 0.8	0 0.0
御浜町	(人) 4 (%) 1.0	5 1.5
紀宝町	(人) 1 (%) 0.3	1 0.3
県外	(人) 25 (%) 6.4	7 2.1
無回答	(人) 4 (%) 1.0	0 0.0
回答者数	(人) 390	336



【図表26】年度別回答者の所属市町

【Q5】あなたは、この1年間に地域講師として活動されましたか？

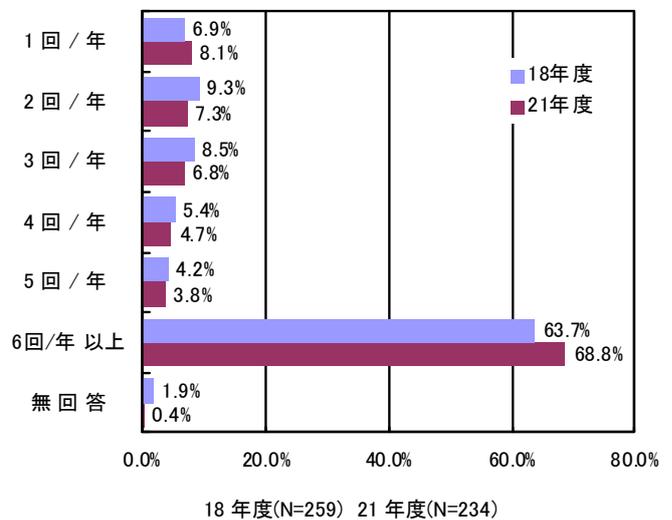
	18年度	21年度
はい	(人) 259 (%) 66.4	(人) 234 (%) 69.6
いいえ	(人) 124 (%) 31.8	(人) 100 (%) 29.8
無回答	(人) 7 (%) 1.8	(人) 2 (%) 0.6
回答者数	(人) 390	(人) 336



【図表27】年度地域活動

【Q6】何回活動されましたか？（【Q5】で「はい」と回答した方）

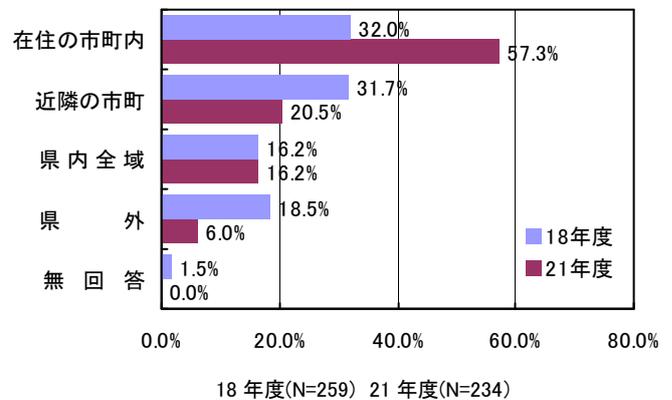
	18年度	21年度
1回/年	(人) 18 (%) 6.9	(人) 19 (%) 8.1
2回/年	(人) 24 (%) 9.3	(人) 17 (%) 7.3
3回/年	(人) 22 (%) 8.5	(人) 16 (%) 6.8
4回/年	(人) 14 (%) 5.4	(人) 11 (%) 4.7
5回/年	(人) 11 (%) 4.2	(人) 9 (%) 3.8
6回/年 以上	(人) 165 (%) 63.7	(人) 161 (%) 68.8
無記入	(人) 5 (%) 1.9	(人) 1 (%) 0.4
回答者数	(人) 259	(人) 234



【図表28】年度別地域活動回数

【Q7】活動範囲はどの程度でしたか？（【Q5】で「はい」と回答した方）

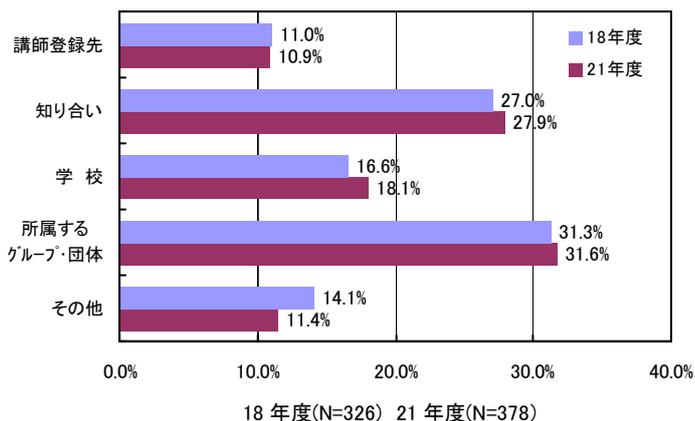
	18年度	21年度
在住の市町内	(人) 83 (%) 32.0	(人) 134 (%) 57.3
近隣の市町	(人) 82 (%) 31.7	(人) 48 (%) 20.5
県内全域	(人) 42 (%) 16.2	(人) 38 (%) 16.2
県外	(人) 48 (%) 18.5	(人) 14 (%) 6.0
無回答	(人) 4 (%) 1.5	(人) 0 (%) 0.0
回答者数	(人) 259	(人) 234



【図表29】年度別地域活動範囲

【Q8】どのような経緯での講師依頼がありますか？（【Q5】で「はい」と回答した方・複数回答）

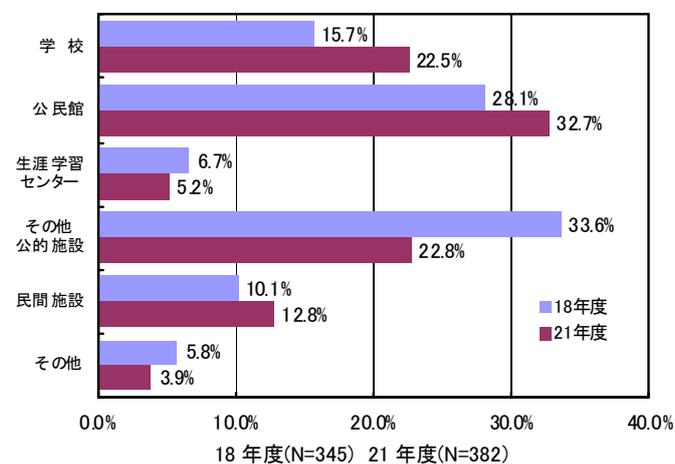
	18年度	21年度
講師登録先からの依頼 (件) (%)	36 11.0	41 10.9
知り合いからの依頼 (件) (%)	88 27.0	105 27.9
学校からの依頼 (件) (%)	54 16.6	68 18.1
所属するグループ・団体からの依頼 (件) (%)	102 31.3	119 31.6
その他 (件) (%)	46 14.1	43 11.4
回答者数 (件)	326	376



【図表30】年度別地域活動依頼先[複数回答]

【Q9】活動場所はどこでしたか？（【Q5】で「はい」と回答した方・多い順に2つ回答）

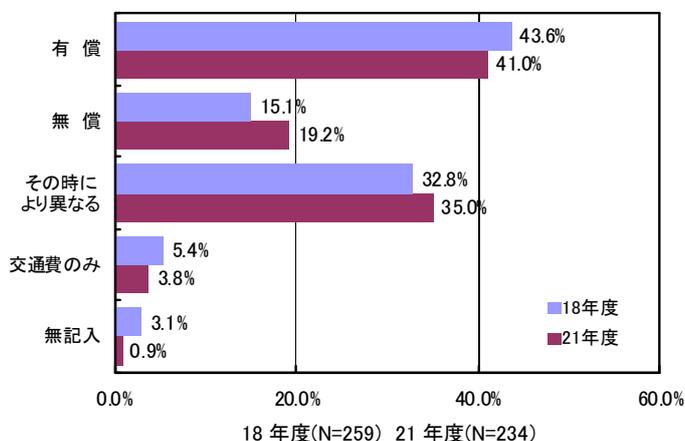
	18年度	21年度
学校 (件) (%)	54 15.7	86 22.5
公民館 (件) (%)	97 28.1	125 32.7
生涯学習センター (件) (%)	23 6.7	20 5.2
その他公的施設 (件) (%)	116 33.6	87 22.8
民間施設 (件) (%)	35 10.1	49 12.8
その他 (件) (%)	20 5.8	15 3.9
回答者数 (件)	345	382



【図表31】年度別地域活動に使用した施設先[複数回答]

【Q10】講師料はいくらでしたか？（【Q5】で「はい」と回答した方）

	18年度	21年度
有償 (人) (%)	113 43.6	96 41.0
無償 (人) (%)	39 15.1	45 19.2
その時により異なる (人) (%)	85 32.8	82 35.0
交通費のみ (人) (%)	14 5.4	9 3.8
無記入 (人) (%)	8 3.1	2 0.9
回答者数 (人)	259	234

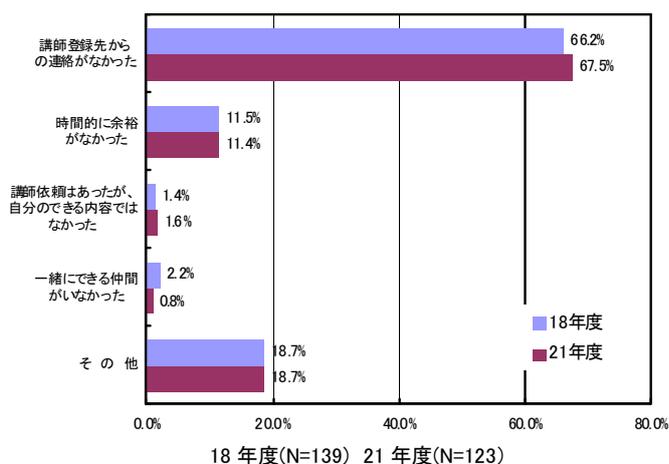


【図表32】年度別活動報酬

【Q11】この1年間に地域講師として活動されなかった理由は何ですか？（複数回答）

（【Q5】で「いいえ」と回答した方）

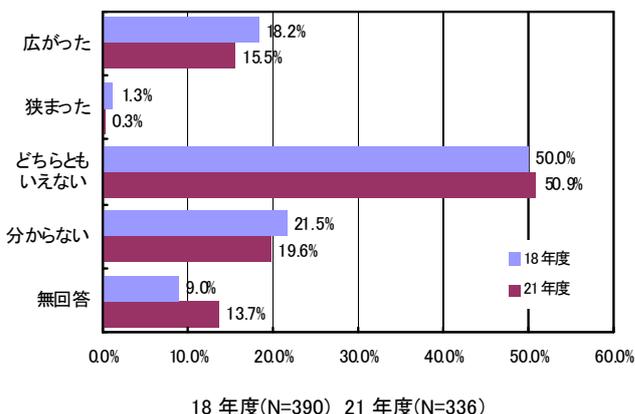
	18年度	21年度
講師登録先からの連絡がなかった	(件) 92 (%) 66.2	83 67.5
時間的に余裕がなかった	(件) 16 (%) 11.5	14 11.4
講師依頼はあったが、自分のできる内容ではなかった	(件) 2 (%) 1.4	2 1.6
一緒にできる仲間がいなかった	(件) 3 (%) 2.2	1 0.8
その他	(件) 26 (%) 18.7	23 18.7
回答者数	(件) 139	123



【図表33】年度別回答者が考える回答できなかった理由(複数回答)

【Q12】講師登録をしてから活動の幅は広がりましたか？

	18年度	21年度
広がった	(人) 71 (%) 18.2	52 15.5
狭まった	(人) 5 (%) 1.3	1 0.3
どちらともいえない	(人) 195 (%) 50.0	171 50.9
分からない	(人) 84 (%) 21.5	66 19.6
無回答	(人) 35 (%) 9.0	46 13.7
回答者数	(人) 390	336

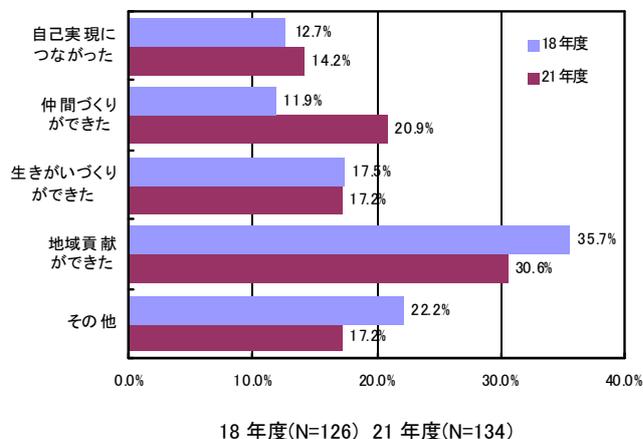


【図表34】年度別講師登録後の地域活動の変化

【Q13】どのような点で「広がった」と感じられますか？

（【Q12】で「広がった」と回答した方・複数回答）

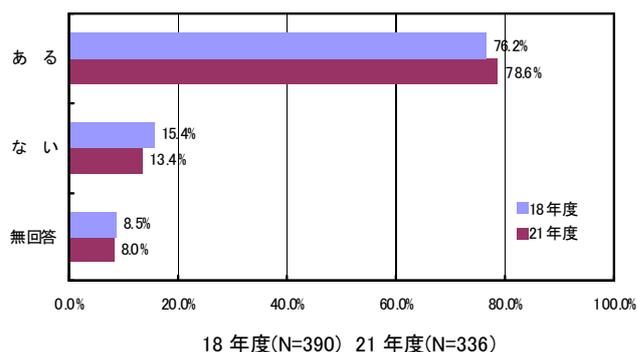
	18年度	21年度
自己実現につながった	(件) 16 (%) 12.7	19 14.2
仲間づくりができた	(件) 15 (%) 11.9	28 20.9
生きがいづくりができた	(件) 22 (%) 17.5	23 17.2
地域貢献ができた	(件) 45 (%) 35.7	41 30.6
その他	(件) 28 (%) 22.2	23 17.2
回答者数	(件) 126	134



【図表35】年度別「広がった」と感じる点[複数回答]

【Q14】スキルアップのために取り組んでいることはありますか？

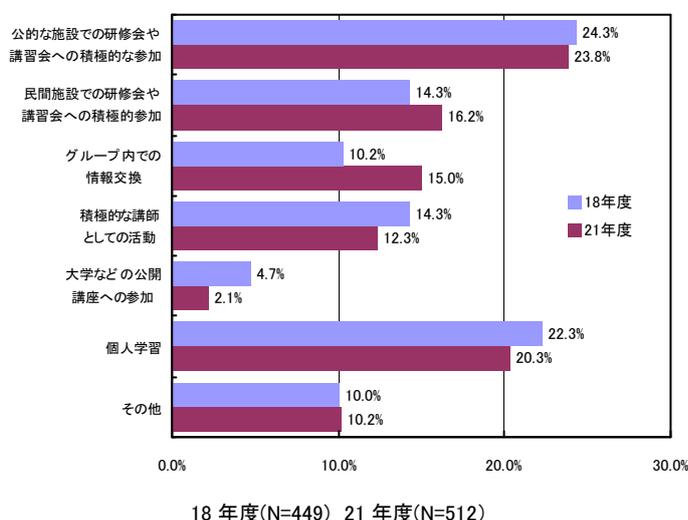
	18年度	21年度
ある	(人) 297 (%) 76.2	(人) 264 (%) 78.6
ない	(人) 60 (%) 15.4	(人) 45 (%) 13.4
無回答	(人) 33 (%) 8.5	(人) 27 (%) 8.0
回答者数	(人) 390	(人) 336



【図表36】年度別 スキルアップへの取り組み

【Q15】それはどのような方法ですか？（【Q14】で「ある」と回答した方）

	18年度	21年度
公的な施設での研修会や講習会への積極的な参加	(件) 109 (%) 24.3	(件) 122 (%) 23.8
民間施設での研修会や講習会への積極的な参加	(件) 64 (%) 14.3	(件) 83 (%) 16.2
グループ内での情報交換	(件) 46 (%) 10.2	(件) 77 (%) 15.0
積極的な講師としての活動	(件) 64 (%) 14.3	(件) 63 (%) 12.3
大学などの公開講座への参加	(件) 21 (%) 4.7	(件) 11 (%) 2.1
個人学習	(件) 100 (%) 22.3	(件) 104 (%) 20.3
その他	(件) 45 (%) 10.0	(件) 52 (%) 10.2
回答者数	(件) 449	(件) 512



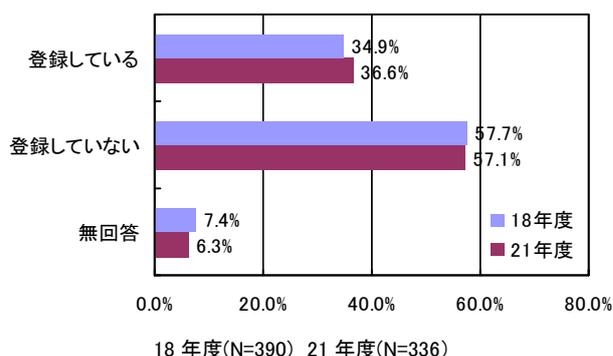
【図表37】年度別スキルアップへの取り組み[複数回答]

【Q16】どのような研修会や講習会に参加したいと思いますか？

※21年度のための調査であるので[8ページ「②参加したい研修テーマ」]を参照下さい。

【Q17】三重県生涯学習センター以外で地域講師として登録をされていますか？

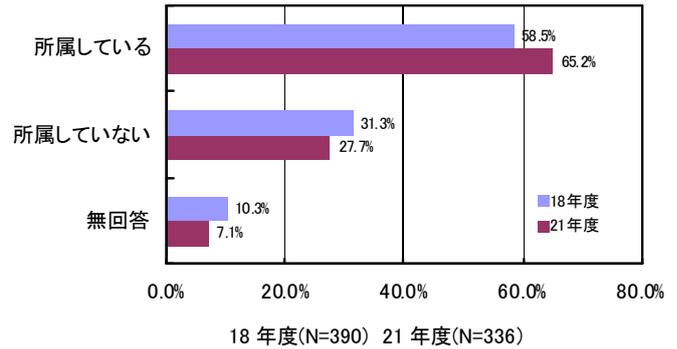
	18年度	21年度
登録している	(人) 136 (%) 34.9	(人) 123 (%) 36.6
登録していない	(人) 225 (%) 57.7	(人) 192 (%) 57.1
無回答	(人) 29 (%) 7.4	(人) 21 (%) 6.3
回答者数	(人) 390	(人) 336



【図表38】年度別複数データベースへの登録状況

【Q18】地域での活動を目的とした団体・グループに所属していますか？

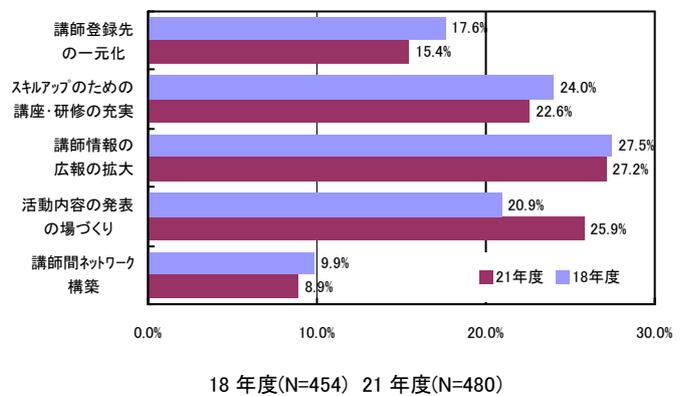
	18年度	21年度
所属している	(人) 228 (%) 58.5	219 65.2
所属していない	(人) 122 (%) 31.3	93 27.7
無回答	(人) 40 (%) 10.3	24 7.1
回答者数	(人) 390	336



【図表39】年度別 団体・グループへの所属状況

【Q19】より活発な地域活動を行うためには何が必要だとお考えですか？（複数回答）

	18年度	21年度
講師登録先の一元化	(件) 80 (%) 17.6	71 15.4
スキルアップのための講座・研修の充実	(件) 109 (%) 24.0	104 22.6
講師情報の広報の拡大	(件) 125 (%) 27.5	125 27.2
活動内容の発表の場づくり	(件) 95 (%) 20.9	119 25.9
講師間ネットワークの構築（自主グループづくり）	(件) 45 (%) 9.9	41 8.9
回答者数	(件) 454	460



【図表40】年度別活発な地域活動をおこなうために必要なもの（複数回答）

・回答者フリーコメント ～行政機関・生涯学習センターへの要望・期待等～

- ・ 知識が上滑りにならない研修を企画してほしい。
- ・ 公共の立場の方が人材を発掘してどんどんPRしていただければと思います。
- ・ ボランティアを望まれがちですが講師としてふさわしい待遇（謝金）は必要です。そうしていただければ我々もプライドと責任を持って講習できます。これは必ず市・県民の利益に繋がっていくはずです。
- ・ 年間1～2回の無料の講師勉強会の実施
- ・ 講師登録を知らない人が多いため登録をしても中々活用されないように思います。
- ・ 家庭教育は何より大切と考えるので家庭に入り親と話し合いをしたい。
- ・ 登録されている方々にもっと陽の目が出る登録の仕方であってほしいと思います。
- ・ 指導者によるまちかど寺子屋文化教室のようなものを作ってはいかがか。
- ・ 県の行政機関と市町の行政機関の間に溝があるのではないか。
- ・ 生涯学習センターの研修、講師、助言者が学術経験者、大学の先生に偏重してはいないか。現場の実績活動家、経験者を生かしては。
- ・ 門戸をいつも広くしていただくように。学習は国民（市民）全体を対象にさせていただくようお願いしたい。
- ・ 施設が津市にあることからどうしても地方での学習の開催が少なくなりますが各市町の公民館、市民活動センター等とタイアップして県民みんなが参加しやすいように考えていただければ幸いに思います。
- ・ いずれにしても広報活動不足で知らない人が多い。
- ・ ボランティアで出来る分野は少ないと思います。助成金などの支援を強化してほしい。
- ・ センターの活動状況は講師登録者に全く知らされていない。
- ・ 誰もが気軽に参加出来るためには会場費をとにかく負担の少ない額に1回500円か高くても1,000円くらいにする必要があります。高齢者が多くなってきますので車にも乗れない人も増えてきます。歩いて通える小さな集会所、公民館をいつも閉じていないで、そこを開放して大いに利用できると思います。
- ・ 地方自治体（市町）が取り組んでいる課題や行事を把握して課題に適した講師情報を流す。
- ・ 受講生（参加者）集めで成功した事例を調査してその方法を流す。
- ・ 私自身社会教育、社会スポーツの現場で仕事をしてきた関係で行政の中身を理解しているつもりではいるが、行政から事案を仕掛けて行く困難さがあり、なかなか事業を計画することが難しいと思う。
- ・ 研究課題・実践例等、交流・発表の場があればと思う。
- ・ 県内で実践されている事例がわからないので項目だけでも知りたい。
- ・ 個人ホームページの公開、（検索可能にする）センターとのリンク。
- ・ 県博物館等の利用を活用したい。
- ・ 講師・指導者の証の発行、身分証明（IDカード等）の発行を希望します。
- ・ この制度が出来て以来、一度も三重県並びに生涯学習センターより依頼がなかった。
- ・ 学校教育、地域行政機関の情報を通じて少しでも理解していただけるようアピールが必要と思われる。

- ・ 現在のボランティア活動を高齢者に対しての暗いイメージを地域社会へ奉仕し活動することにより相乗効果が得られると思います。これが高齢者社会を前向きに生きることの一例となるのではないかと思います。
- ・ この種の登録は役にたっているのか疑問。
- ・ 行政側の積極的な学習環境の整備とサービスの提供。
- ・ どんどん宣伝してほしい。
- ・ 生涯学習については受講者側の講師料の負担、あるいは講師側の負担という問題がありますが何らかの行政機関の助成があるべきと考えています。
- ・ 地域に任せるほうが効果的な事業内容については意欲のある地域の公民館に任せてはいかがでしょうか。
- ・ たくさんの方が登録していると思いますが3年毎に更新するとき、何人かのグループにわけて講師を選んで話し合うとか講義を聞くとか講習を受けたりとかのお膳立てをしてほしい。
- ・ 社会教育、生涯学習での実績をあげている地区の情報を知りたく思います。県下での活動の一覧表を作ってほしい。
- ・ 行政（公民館）・教育（学校）の機関・施設の有効活用とそのためのネットワーク化。
- ・ 社会教育体制の連携と整備。
- ・ 社会教育施設機能と人的機能の活用。
- ・ メールで交流ができると手軽に情報交換が出来て良い気がします。
- ・ 今後とも活発積極的に活動される事を願っております。
- ・ 自分の力のなさだと思いますが、このように登録させていただいてもなかなかきっかけをつかむことができません。たとえばこのような場所がありますよ等、少し助言的なアドバイスをいただけるととてもありがたいと思います。
- ・ 教育行政と観光行政の連携で生涯学習ボランティアの観光ガイドとしての活用を提言いたします。
- ・ 色々な情報の提供をよろしくお願いいたします。
- ・ 生涯学習センターへ登録している方々の年に1回でも交流会や発表会の企画をしていただけたら、どのようなジャンルの方々が登録しておられるのかコミュニケーションも生まれ、地域文化の発展にもつながるのではないのでしょうか。
- ・ 学校教育の課外授業に老人等の人材を派遣すると良い。
- ・ 地域の子供達と接する機会がほしい。
- ・ 年に最低1回は担当できる機会があればありがたい。
- ・ 講師が地域に役立てるような機会を増やしていただくことに情報交換の充実をお願いいたします。

平成22年度 調査研究事業報告書

「地域講師の活動状況と学習志向に関する調査」

平成23年3月 発行

編集発行 三重県生涯学習センター
所在地 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234 番地
電話番号 (059) 233-1150 ・ 1151
FAX (059) 233-1155
URL <http://www.center-mie.or.jp/manabi/>